

## 令和3年度（2021年度）第1回ニセコ町総合教育会議 議事録

日 時 令和4年（2022年）2月16日（水）  
午後3時00分開会～午後4時50分閉会

場 所 ニセコ町役場 多目的ホール

出席者 片山健也町長、山本契太副町長、  
片岡辰三教育長、下田伸一教育長職務代理者、越湖明美委員、  
大橋理絵委員、巻礼子委員  
前原学校教育課長、芳賀町民学習課長、淵野こども未来課長兼幼児  
センター長、富永学校給食センター長

会議概要 以下の通り

### 1 開会、2 町長挨拶

町長：連日、感染症の拡大が続いておりまして、ニセコ町でも毎日2～8名程度で推移しております。最近は少し下がってきましたし、今のところニセコ町内でのクラスターは発生していませんが、家族内での感染が引き続き多いのと、リンク不明というのが継続している状況で、みなさん毎日ストレスの溜まる日々を送られていると思います。

今、保健所が大変な状況になっていて、後志総合振興局からも保健所に応援に行ったり、私どもの保健師も保健所と共同作業をやらせていただいている状況です。

引き続き、学校現場を含めて大変な状況にはありますが、少しでも感染が収束しますよう我々も努力してまいりたいと考えておりますので、忌憚のないご意見を賜ればありがたいと思っております。よろしく願いいたします。

### 3 議事

片山町長が議長として議事を進行。

#### (1) 令和4年度ニセコ町予算概要についての報告（町長）

町長：みなさんのご協力のおかげで、新年度予算がまとまりました。当初予算では例年約10億円以上のお金がたりないということで、そこから内容を精査させていただいて、7～8億円を削減するという大変な作業を行っています。一方で税込を含めていろいろな収入を最大化するというので、国の制度や、国にお願いをして制度を作っていただいて収入を得ることを増やしたりしているところです。

全体予算が51億2千万円でまとまっている状況で、全体の集計が終わって書類ができれば公表するとともに、議会議員のみなさんにもお知らせするという作業をしています。

昨年から見ると少し多い予算になっていまして、対前年度予算で2億1千万円程多くなりますが、庁舎建設のような大きな事業としては特にないので、細やかな部分で予算付けをしているのが実態です。

教育委員会の予算は5億1千100万円で、去年は4億5千万円なので、6千100万円程多くなっているという状況です。細かい点は、教育委員会議の中でお話があると思います。

いつもは私の方から一方的に、たくさんのお願い事のようなお話をさせていただいているので、できるだけ話は短くさせていただいて、みなさんとの意見交換の時間をもてると良いと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

近藤小学校の校舎教室棟の増築が完了したこと、教育委員のご努力によりコミュニティスクールやニセコスタイルの教育が、相当進んでいることに感謝を申し上げます。

私は、公営塾ということを盛んにお願いしてきましたが、子どもたちの居場所づくりということで、イメージとしては、子どもが学ぶことが嫌にならないような居場所づくりを、引き続きご検討賜ればありがたいと思っております。

町として管理職会議でも再三お話していますが、新型コロナウイルスの感染予防対策につきましては、できることは精いっぱいやる、そのためにはしっかりと予算をつけるということで進めてきておりますので、引き続き教育委員のみなさまにおかれましては、何か気づきがあれば教育委員会にお話させていただいて、予算提案をしていただければと思っております。

## (2) 教育全般についての意見交換（町長提案事項）

### ① こども未来課について

実際に大きな動きをしていただいていることに、感謝を申し上げます。ユニセフとの子どもの人権に関することも進めていただいておりますし、新年度においては、ファミリーサポートセンターの樹立に向けて、一歩前に踏み出すということで予算付けをされていますので、子育て環境の改善についても、しっかり道筋が立てられれば良いと思っております。また、これをきっかけとして、将来的に病児保育ができて、安心な子育て体制ができると良いと考えております。

### ② ニセコ高校の将来構想及び寮の整備について

これまでも寮が先か高校の将来像が先かということを繰り返してきましたが、寮はもう必須ですし、多用途に使えることがたくさんありますので、高校寮の新設を最優先にして、何が何でも早期にやるということ、それと並行して、高校の将来のあり方の検討を連携しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

資料に先進事例としていくつか載せてありますが、感染が広がっている中では難しい状況かもしれませんが、可能であれば視察等で情報収集をお願ひしたいと思います。

連携協定も記載のとおり大学等と、町や教育委員会として連携をしております。連携先は様々なノウハウを持っているところですし、具体的な作業を行っているところもたくさんありますので、頭に入れていただきながら、新たな高校のあり方についてご検討賜ればと思います。

寮の整備にあたっては、財源の心配をされる方も多と思います。寮の整備には地方創生の拠点交付金というものがありまして、例えば総事業費が5億円とすると、国から50%をもらえて、さらに過疎債という元利償還金の7割を国が面倒を見てくれるという有利な借金もあります。過疎債は、過疎地域といってニセコ町のような人口が少ない地域として認定されているところに認められているものです。昨年、議会議員をはじめ多くの方々の運動をいただきまして、ニセコ町が引き続き過疎地域になることができました。いろいろなみなさんに応援をしていただいて、あと9年間過疎地域になることができましたので、この制度を活用しながら、道路や施設整備等も進めていきたいと考えています。

- ③ インターナショナルスクール等との連携強化及び国際交流員、地域おこし協力隊・集落支援員の活用

(国際交流、子育て支援、部活支援、公営塾講師等)

引き続き、よろしく申し上げます。

- ④ 各学校施設・体育館等の有効利用について

海外では体育館が各学校にないそうで、周辺学校で一つの物を使うとか、共用でグラウンドを使うとか、公共施設を多目的に多様に使うということが当たり前になっています。日本社会は、どうしても一学校一施設ということで、目的外には使わせないもったいない使い方をされていますし、町民の財産として広く活用されることが、公共施設の使命だと思いますので、柔軟な対応をいただければと思います。

- ⑤ 子育て及び教育に関する基本的考え方について

子どもの貧困格差が大きな社会問題となっています。

ニセコ町では医療費の無料化を18歳までとしています。保護者の所得に関わらず、子どもが健全でのびのびと学習をしながら成長していく社会環境をどのように作っていくかが、私たち大人の使命ではないかと思っています。これまでも、学校給食も大変ご尽力をいただき、地産地消や、できれば減農薬の原材料を導入するようお願いをしております。これらの差額については保護者に転嫁をせずに、町が負担するというので引き続き進めていきたいと思っております。

私は一貫していろいろな場で言っていますが、日本国憲法では、「義務教育はこれを無償とする」と書いていますが、実際は全く無償になっていません。学校給食をはじめ修学旅行や見学旅行の補填、昔はスキー授

業のリフトやバス代は親が負担していたということが、当たり前に行われていたこともあって、この異常さを何とかしたいと考えています。現在の日本の社会では、私が知っている限りで7つの自治体が、義務教育の完全無償化に向けて努力をされていて、本当に完全に無償化というところは一つもないとは思いますが、そのような姿勢で動いていることは、私は大変重要ではないかと思っておりますので、ニセコ町においても町の予算全体の持続性もありますが、でき得る限り親の負担を軽減する方向で、さらに調整していきたいと思っております。教育委員のみなさんのご協力をお願いしたいと思っております。

新聞記事を資料としてお配りしています。「15歳未満の年少人口「教育移住」増加は3町、ニセコ首位」ということで、北海道内の資料ではありますが、おかげさまで子育て世代の移住がずっと微増状態ということです。また、「起業の増加数が全国の町村で第6位」ということで、これはいろいろな要因がありまして、地域おこし協力隊のみなさんの頑張りもありますが、一番は十数年来やっている、小樽商科大学のビジネススクールがありまして、毎回20人前後が町民センターで受講されております。小樽商大の先生方が来て、若い人たちが起業するためにはどうしたら良いかという講座を開催していただいている、そこから凄く自信をもって起業される方が増えているということも、ひとつの要因になっております。ニセコに入って来られる方を応援させていただく制度として、商工会を通じての補助制度がありまして、施設関係については3分の1で上限が100万円となっていて、商工会で審査をしていただいて商工会に加入することを条件としたものがあります。

私どもは、商工会の指導員をはじめいろんな方がレクチャーすることによって、様々なコミュニケーションができて、その人たちが将来的にまちづくりに参加して、みんなでまちづくりを考えるような最初のきっかけになれば良いということで、このような助成制度を設けながら進めてきたところです。

### (3) 教育全般についての意見交換

教育長：子育て支援ということで先程町長からもありましたが、こども未来課では、これまで保健福祉課で所掌を行っていた業務の一部を教育委員会に移行し、こども館の運営等幅広く事業を行ったり、地域で預かり保育等の事業をやっていただいている方への積極的な支援の体制づくりや、町としてもファミリーサポートセンターの立ち上げに取り組んでいるところです。

町長：細かい話ですが、一部マスコミ等で取り上げられている教育格差の問題で、生理用品に困っているということがあります。現在、役場庁舎の女性用トイレには全部置いています。教育委員会へは昨年から、各学校現

場においても必要であれば置かせていただきたいというお願いをしていますので、学校現場のご理解をいただけるのであれば、町の予算で全部用意しますので、できれば気軽に持って行っていただけるような環境にできないかと思っています。

教育長：学校でニーズはありましたか。

学校教育課長：不要ということで、前回確認した時と変わっていません。

教育長：学校では保健室の先生を経由することが多いようで、現状では積極的に学校に置くというニーズがなかったということです。

巻委員：学校のニーズとしては、おそらく保健室に試供品がたくさんあって、それも使って対応しているということだと思いますが、どこにでもあって困らないという状況ができるというのは良いことだと思います。町としてそのような対応できるということを書いていただけるのは、ありがたいことだと思います。

町長：試供品はたくさん来ますか。

巻委員：たまに来たりするので、保健室の先生がそれで対応しているということもあると思います。

町長：必要な人は保健室に取りに行くと言っても、勇気がいると思います。しかも何回もとなると行きづらいのではないかと思うので、トイレに気軽にあったら良いと思います。現場のニーズに合わせてやるしかないとは思っています。

越湖委員：気軽に保健室に行っても、言える子と言えない子がいると思います。急を要する時ではない時に使ってしまう子もいるかもしれませんが、生理用品が常時置いてあるのが普通と思えて、それが日常になれば良いと思います。急な時に言えない子が助かる状況が、一番良いと思います。

町長：引き続き、現場で理解が得られれば置けると良いと思っていますので、よろしくをお願いします。

下田委員：ニセコ高校の将来構想の件ですが、このテーマで何度か総合教育会議でも取り上げていただいています。ここで話したことを学校に落とし込むということが進んでいないので、なかなか進め方が難しい案件だと思っています。数字の話をする、ニセコ高校の入学希望者が、若干持ち直してきていて、来年度の入学希望者は現在26名ということで伺っています。過去に一度一桁になったことがあって、そこで危機感を覚えたところですが、持ち直してくると結局何が課題だったのかということになってしまうので、魅力化だったりをどのような体制で引き続き進めて行けば、実際の現場の取組につながるのかということのを毎年思っているところなんです。

町長：高校生の数が減っている、それを地域で奪い合っているという非常に悲しい実状で、抜本的にどこかで解決しないときりが無いと思います。高校進学者の7割は普通課程へ行って大学進学を目指します。ヨーロッパやアメリカの事例を見ても、高校選択の多様性は日本の社会では本当

に少ないです。魅力化も生徒を奪い合うための魅力ではなく、例えば日本の国全体にとってプラスになるような学科を置くとか、あるいはグローバル化をするとか、国際基準のIB教育をニセコ高校に導入するとか、本当に何かに特化したもう少し尖ったテーマで行かないと、本質的には進まない気はします。

教育長：定時制の枠としては、ニセコ高校、真狩高校、留寿都高校が近隣の農業を主とする学科で設置しているところです。今年の出願状況ですが、出願変更が先日出ましたが、基本的には大きく変わってはいません。ニセコ高校は40名定員のところ26名で0.7倍、真狩高校が17名の0.4倍、留寿都高校が11名の0.3倍ということになっております。同様に上川管内幌加内高校も農業を主とした学科で、13名の0.3倍、全日制ではありますが、後志管内の倶知安農業高校は16名の0.4倍ということです。農業系の郡部校については、生徒募集はかなり厳しい状況になっています。そのような中で、真狩高校、留寿都高校、ニセコ高校も、これまでは札幌市や全道各地から生徒を募集していて、留寿都高校は福祉系と農業、真狩高校は製菓系で人気があって、昨年までは生徒も来ていましたが、コロナの関係なのか、今年は真狩高校は札幌方面からの入学希望者が少なく、倍率が低かったと聞いています。そのような中では、ニセコ高校は26名で、昨年は24名、一昨年は9名ということなので、半数強を確保したということで頑張っていると思います。ただ、この先、5～10年を考えた時に、生徒数が減っていく中で、生徒を奪い合っても仕方がないので、すみ分けをするという意味では、違った特色をもってニセコ高校も取り組んでいくということも必要だと思います。教育委員会としては、これまでなかなか学校のことには立ち入れなかったのですが、来年度の早い段階で検討協議会を立ち上げて、具体的に組織立って検討する中で、一定の方向性を見つけて前に進んでいかないと、なかなか同じ議論の繰り返しになるので、一步踏み出すという取り組みをしていきたいと思います。その関係で、他の高校の取組を検討協議会で視察に行って、どのような高校づくりをしたら良いのかという具体的な議論を進めていければと思っています。

町長：いろいろな大学や高校と連携する中で、ニセコ高校を何が何でも残さなければいけないという前提に立つと、新たな物は生まれません。高等教育は地域にとって非常に重要だと思っていますので、そこにグローバル的なものを入れるのか、ニセコだと観光を取り入れるのか、あるいは、スポーツ系やアウトドアのようなものを入れるのか、何か特化したものがなければ、羊蹄山麓は農業高校ばかりなので、このような時代は終わらせないと次には進まないと思います。

教育長：委員のみなさんから直接私の方にご意見をいただいたりしていますが、全くの理想のお話でも良いので、この場で何かアイデアがあれば、今後の検討材料にもしていきたいと思っています。

町長：今、北海道インターナショナルスクール（H I S）ニセコ校の中等部を受け入れるスペースが物理的になくて、困っている状態です。札幌校の先生から言われているのは、カナダやハワイ等世界のいろいろなところから、H I Sニセコ校が受け入れ可能であれば、こちらに来たいという問い合わせがありますが、今は受けられないという状況なので、一部建物を紹介はしましたが、なかなか直すにも数百万円はかかる話なので、現在協議中です。

大橋委員：H I Sの話ですが、私自身もニセコ町に来る時に、H I Sがあるということで魅力を感じて、子どもたちも交流したり、外国の友達ができるのではないかと期待して来ました。実際、今のH I Sの状況を見ますと、先生も足りないような状況なので、子ども同士の交流ができれば良いと思いますが、H I Sがそこまで手が回らないのではないかと思います。先生の数を増やすというところから、町でもサポートできれば良いのかと思ったり、学費が高くて手が出なかつたりするということもあるので、小さい時から英語を学ぶチャンスができれば良いと思っています。

町長：中等部から札幌に行かれる方は多いですが、最近はニセコで中等部に入れて、お子さんと一緒に暮らしたいという要望が増えているようです。H I Sは英語教育しかなくて、日本語を教えるということは学校として考えてはいないようなので、中等部には教育体制も含めて充実してほしいという思いがあります。別な組織がニセコで開校したいと考えているところもあり、そこは日本語と英語で子どもを教育したいという人だけが来ていただくようなことのようにですし、全寮制にしたいという意向で、基本的には地元の子を想定していないようなので、お互いが競合することはないと思っています。両方の話を聞きながら調整して、国際的な教育の場の拡充ができればと思っています。

越湖委員：ニセコ町にH I Sがあるということは魅力の一つと捉えて良いと思います。交流がないと思っているわりには、H I Sにいる子どもたちは交流したくないわけではなく、ちびっこ広場や放課後に話したりする場がないわけではないです。コロナの関係等で声掛けはしていなかったと思いますが、例えば放課後子ども教室にお誘いした時には、行けると思いますという回答があったので、交流できる機会はあると思います。中等部ができると、自然に友達になり、語学に興味を持つというところにつながっていけると思うので、児童館のような子どもたちが集まるような場所があると良いと思います。現在は、学童と放課後子ども教室とみらいラボをやっていますが、申し込んだ子は参加できますが、申し込んでいない子はどうしているのかと思ったりします。学童の子はこども館には行きますが、親が働いている家庭の子どもと働いていない子の差は何だろうとされていて、やることが違っている、子どもが選べないという環境にあると思います。いろんなことを企画していることは良いと思いますが、行けない子たちに目を向けると、ただ行って黙っていると喋

っているとか相談したりとかできる環境の場が欲しいと思います。児童館のような環境があると、そこが居場所になるのかもしれないし、何でも作りたい子ばかりが行くわけでもないし、ホッとした子もいると思うので、それに合わせてあげられる大人がいるような環境が欲しいと思います。

教育長：H I Sの子はこども館の利用はできましたか。

こども未来課長：希望があれば利用は可能ですが、現実的にはいません。

教育長：みらいラボは放課後の子どもの居場所としては活発に活動をしていて、コロナがなければもっと受け入れたいところですが、H I Sの子は受入れ可能ですか。

越湖委員：放課後子ども教室でも募集時に確認をとった時に、日本語が堪能な保護者の方もいらっしゃいますが、英語しか話せない方もいるので、アクセントがあった時に対応できるかという問題があったので、そのあたりがネックになっているのではないかと感じました。

町長：みらいラボはどれくらい実施していますか。

越湖委員：週に1回水曜日に実施していますが、不定期で土曜日にイベントを企画して実施しているようです。

町長：週に1回であれば、国際交流員をローテーションで配置できると思います。問題がなければ幅広く受け入れると良いと思います。

教育長：コロナで密の状況を避けるために定員を設定しているので、それがなくなって、通訳ができる人が配置できるのであれば可能なのかどうかというところです。ニセコスタイルの教育では、英語を重点化しようということをやっているので、小学校や中学校もH I Sと交流をしていたり、みらいラボ等にも言葉の壁がなくて参加したいという子がいれば、検討が必要かと思います。それによって、交流ができると思います。

越湖委員：ニセコ町に住んでいるので、全く日本語がわからないということはないと思います。ケガをした時等のことを心配していたのかもしれない。

町長：心配ばかりしていると何もできないので、保護者の同意をもらう等して、幅広く交流をしなければもったいないと思います。物理的な居場所の問題があつて、自由に集まれる場所があると良いですね。

越湖委員：放課後子ども教室も現状2日開催している中で、コロナになってからは、ニセコ小学校と近藤小学校を一枚ずつ週一回で実施しています。少年団や習い事をしている子どもは良いと思いますが、そうでない子にとっては放課後子ども教室が居場所になっているとしたら、みらいラボにも行かない日はどうしているのかと思うと、居場所が欲しいと思います。

町長：総合体育館の元の教育委員会の部屋は、平日の午後は使っていますか。

町民学習課長：常時使っているわけではありませんが、会議室や作業場として使ったり、放課後子ども教室等の準備室として使っています。

越湖委員：放課後子ども教室は町民センターを使っていますが、指導はしていますが、学校から帰って来た時にどうしても大きな声を出してしまい注意



されるので、おもいきり遊ばせてあげたいという気持ちはあります。

副町長：町民センターの大ホールは使えませんか。

越湖委員：大ホールは年間で予定が入っているので、小ホールを抑えていただいています。こども館で実施していた時は、国際交流員が来て英語のイベントを実施していた時に、学童の子どもたちと一緒に活動していましたが、今は学童の子たちはそのような機会に恵まれていないので、できれば好きな子は一緒に遊べたら良いと思っていて、残念なところです。

町長：授業終わりに学校を開放するのは難しいですか。

副町長：学校は一度子どもたちを帰さなければいけませんか。

巻委員：一番良いのは学校で、H I S の子も近くて来れるので良いと思います。個人的なイメージですが、ニセコのイメージとしては、外国の人がたくさんいるので外国の友達がいたり、英語が話せたり、スキーができるというのは必ず聞かれることかと思っていて、子どもたちが就職や進学でニセコを離れる時に、どの子たちもイメージのような少し鼻高々な子どもたちを送り出せたらいいと思っています。学校は凄く便利なところですが、今一番問題になっているところは、事故があった時の対応や、管理の方法だと思っています。教職員の一番難しいところは、柔軟に考えろと言われるところが一番弱いので、先生方の意識を変えないとなかなか難しいのかと思っています。

町長：体育館だけでも開放できれば良いですね。

教育長：少年団はニセコ小学校の体育館を使っていますか。

下田委員：曜日によってサッカー少年団と野球少年団が使っています。

町長：学校で管理するのではなく、全く別な仕組みを作ってできると良いと思います。

下田委員：少しずつですがサッカー少年団の指導に協力隊の方が来てくれています。地域おこし協力隊はいろいろな能力がある方がいるので、需要と供給が出会ってないところもあると思います。時間帯によっては体育館も使っていない時間もあるので、うまく交通整理ができれば良いと思います。全体的なことですが、そのような場を用意したものの、本当に求めているのかという問題もあって、実態調査のようなことをしても良いと思います。知恵と工夫次第では過ぎしやすかったりすることもあるので、足りないものを言い出せば全部のニーズをまとめ上げるのは難しいと思います。サッカー少年団も手伝わせていただいています、子どもたちが伸び伸びできるような環境整備は大事だと感じています。

教育長：学校の働き方改革が進んでいて、先生方の希望者も減っているということもあります。部活動については、働き方改革の超過勤務の原因になることが多いので、学校部活動を地域の指導者が補って行うということで、令和5年度から体制を作る準備のために、町民学習課で検討協議会を立ち上げて、地域の指導者としてどのような人がいるのかということと、地域おこし協力隊のみなさんにも才能を持っている方がたくさんいるようなの

で、そのような方が放課後や土日に協力してもらえる体制がうまくできればと思っています。学校の部活動でよく言われるのが、熱心な先生がいる時は強いが、転勤したら弱くなるということもあるので、ニセコ町の地域スポーツをどうするか、土日の部活動を地域で担うためにどうしたら良いか検討する協議会を作って検討していくということです。併せて、ニセコ高校のことも具体的に協議会を立ち上げて検討し、結果一歩でも踏み出さないと困るので、できるだけ実りある取り組みができればと新年度予定しています。

町長：学校の施設整備としては、今回近藤小学校が終わったので一段落したかと思っていますが、今後はソフト面をどう展開していくかというところだと思っています。日本の社会は西高東低とよく言いますが、西の方は地域おこし協力隊や集落支援員等の制度をたくさん使っていて、40～50人いるところはたくさんありますが、東北や北海道は国が用意した制度をあまり使っていません。ニセコ町が30人以上いるのは多い方で、東川町の50人くらいは西側に行くと普通のことです。公営塾は8割が地域おこし協力隊や集落支援員が担っているところもあるので、もっと多様に利活用ができると思っています。部活動もそのような人を募集するとか、ニセコ町内の方で仕事を持っている方が時間を決めて、中学校の部活動を専門的にみるとなると、副業の許可を得て、両方の身分をもってやることも可能なので、どんどんシフトしていかないと先生方も厳しいと思います。

巻委員：英語を習いに倶知安町まで行っている子たちもいるので、英語教育に力を入れていく中で、町として補助があればということと、インターナショナルスクールとの交流も併せて、ブラッシュアップしたい時に補助制度があると良いと思いました。

教育長：町として英検の受験料を補助していますので、積極的に受けていただいて、今後小学生でも受けたいということになれば、若いうちからチャレンジしていくと自然にレベルアップしていくと思います。

町長：指導者がいれば、ニセコ町内で開業をしていただければ、町としても応援をしやすいと思うので、そのような環境ができれば良いと思います。

越湖委員：地域おこし協力隊の方でも、隊員としての活動が終了する前でもそのような話を持ち掛けても良いかもしれません。

町長：隊員何名かで協力して、町の方からも軌道に乗るまで支援したりできる体制ができると良いですね。

教育長：国際交流員の英語講座をリモートでやっていると思いますが、子ども向けでもできないかとも思います。

町長：国際交流員を増やしてやってもらうことも可能ですね。

教育長：増やすことはできますか。

町長：枠があるので、申請をすれば認めてくれる制度ではないですが、考えてみても良いと思います。

副町長：イメージとしては、英会話スクールですか。

巻委員：自分で通っていた英会話スクールは、ケンブリッジ英検という日本の英検のようなものを一年の最後に受けて、自分のレベルを国際基準（セフール）で認定してもらうものでした。

教育長：地域おこし協力隊は3年後に起業なので、英会話スクールも良いですね。

副町長：コロナの前は、地域おこし協力隊も英会話教室等もやっていましたが、コロナが落ち着けばできると思います。最後に資格が取れるまでのシステムはありませんが、ニーズはあって人も来ていました。

越湖委員：H I Sの中等部は、国の助成等で建てられないものですか。

町長：今の場所自体は、町で作った国際交流施設です。約6千万円をかけて旧幼稚園を直しましたが、良いタイミングで100%の国の交付金があったので活用しました。そしてそこを国際交流施設としてH I Sに使っていただくということで、議会の議決をとって、無償で使っていただいています。良い財源があれば良いですが、なかなかないのが現状です。

町長：中等部が4人程いるようですが、場所が狭いので、増築するののかも検討しているようです。

大橋委員：小学校のスキー教室をやっていただいています。最近ではスキーボードをやっている子も増えてきていて、スキーをあまりやったことがない子もいます。スキー授業の時は、スキーを借りに行ったりしていることもあるようです。スキー授業はスキーに限定せず、スキーボードができる先生がいればですが、スキーボードのクラスも今後は必要になるのではないかと思います。オリンピックを見ていると、町を挙げて選手を育てるといった地元の様子もあって、ニセコも良い環境なので、世界で活躍できるような選手が生まれてほしいと思います。ニセコ高校にもスキー部があったり、スキーが得意な子が集まってきたりという環境ができると良いと思いました。子どもにスキーをやらせるにも、習わせるとなると費用もかかるので、気軽に雪に親しませるような機会があれば良いという話もありますので、スキーリゾートの強みをうまく回せると良いと思います。町内の施設としては、総合体育館やあそぶく等いろいろな施設があるので、ニセコ町は充実していると思っています。ニセコ小学校の体育館の雨漏りが酷いようなので、対応をお願いしたいと思います。

町長：夜間スキー教室は今もありますか。どのくらいの頻度で実施していますか。

町民学習課長：コロナの状況もあるので30人で実施しています。これまでは一斉に実施していましたが、昨年からは低学年と高学年を分けています。1年生については、はじめてのスキー教室も希望をとって開催しています。就学前のお子さんについては、スキーのレンタルはあります。

町長：小学校に入るまでにリフトに乗れるようにするために、昔は夜間教室で指導をしていたと記憶していましたが、今はどうですか。

教育長：未就学のおさんは対象になっていません。幼児センターにはニーズ

はありますか。

こども未来課長：現状では親御さんが対応しています。

越湖委員：実際にリフトに乗れない子がいるということですか。

教育長：移住されてきたお子さんは、馴染みのないこともあると思います。

町民学習課長：冬休み中に開催するので、冬休み明けのスキー授業に向けて1年生を対象に実施しています。

町長：リフト券の助成の利用状況はどうですか。

町民学習課長：かなりの利用があります。

教育長：ニーズがどのくらいあるのか、場合によっては正規のインストラクターをお願いするための予算もかかるので、今後検討しなければと思います。

町長：体育館の雨漏りの状況はどうですか。

学校教育課長：昨年の春に雪害で壊れたので修繕しましたが、暖気で横から水が入り込んだと理解しています。高所なので、屋根の雪下ろしもできないので、今は対処的なことしかできてはいません。

下田委員：リフト券の助成は大好評なので、継続をお願いします。夏のオリンピックの影響なのか、スケートボードができる場所がないのかという問い合わせがあったり、冬も体が動かせる場所があったら良いという話を聞きます。確かに決まった場所があるわけではないので、整備ができれば良いと思います。

冒頭で町長が義務教育の無償化のお話をされていましたが、「年少人口北海道一位」というのは物凄く名誉なことだと思いますし、この裏側にある理由として、ニセコ町の子育て環境が良いということが口コミでも増えていることもあると思うので、ニセコ町は子育ての町として取り組みを進めていて、子どもたちも幸せに暮らせる教育の町になっていけばと思います。

町長：家庭で購入する副教材は予算付けをしています。

学校教育課長：学校の希望に応じて、ピアノカと絵具セットは用意させていただいています。

町長：全部を一回にできませんが、持続的に支援できるよう原課で予算をあげているので、保護者の負担は相当減っていると思います。

下田委員：給食を無償で提供している自治体もあると聞いています。

町長：給食の無償化は増えています。過疎債のソフト事業を使うと、過疎地で給食の無償化を実施できます。これはいわゆる借金ではありますが、過疎ソフト事業で学校給食に町費を支出するということになれば、その借金に7割が同じようにみられることになるので、町としては3割負担を支出することで、学校給食を無償化できるということになっています。借金の総額は毎年増えていきます。ただ過疎ソフト事業で、子どもたちの給食費を払うのは私は制度の趣旨が違っていると思うので、ニセコ町は現在実施していません。

学校給食センター長：給食の経費については、約3千200万円の賄いに対して、町として400万円強を支出しています。

町長：町としても応援をして、保護者負担はできるだけ少なくしてはいます。

学校給食会というところがあって、そこを通せば、大量に購入できる物もあります。

学校給食センター長：牛乳は北海道が契約した単価で入ってきます。

町長：ニセコ町は地産地消を増やして来ています。

学校給食センター長：学校給食会というよりも、直接農家さんと交渉させていただいています。全体で野菜等5～6割くらいの物がニセコ産で、道内産となれば8割くらいになります。最初は安い物を使っていましたが、多少単価を上げてでも地元産を買うようにしています。昨年も、直接栄養教諭が実際に物を見させていただいて、新規にお願いする農家さんを3軒増やしています。

町長：一昨年は、コロナ対策で半年間給食費を半額にした経過もあります。約3千万円を安定的に支出できれば、無償化の可能性はあります。

副町長：一人当たりの給食費は年間でどれくらいですか。

学校給食センター長：小学生で5万円弱、中学生で約6万円です。

町長：イメージとしては、町を維持するお金がニセコ町は28億円かかりますが、それが基準となって国の地方交付税の基礎額が決まって、そこに税収の約8億円を引いた額に75%をかけたものが、地方交付税として入ることになっています。自己財源と言って、28億円の税収があると国から地方交付税ももらわないで運営できるという考えになります。ニセコ町は税収との差額の75%の地方交付税が来て、それだけでは運営ができないうえに新しい仕事が全くできないことになるので、それを持続するために補助金をもらったりして新たな事業を展開することになります。過疎債と辺地債というものがあって、借金をすると国から8割の財源補填がありますが、借金の総額はどんどん増えて、借金の総額から国から来るお金を差し引いたものが実額なので、それで将来どうなるかということシミュレーションしながら運営をしています。ニセコ町の税収は0.3しかないの、それが0.6や0.7になると少し機能的になります。そのためには固定資産税等の税収がもう少し増えて、16～17億円になると、都会でやっているような応援ができるのではないかと思います。そのためには、人口が増えるとか、ニセコ高校の生徒が40人定員になると交付税で学校運営ができるので、町の負担が少なくなります。全体バランスをみながら財政運営を行っているところです。

町長：今回の予算の内示で、大幅に削減された部分がありますか。

学校教育課長：総合体育館の改修経費です。

町長：総合体育館の改修経費は、床の基礎からの作業になるので高額になります。

町民学習課長：アリーナの床を削る作業は3回が限度とされていますが、既に3回を終えているので削ることができません。そうすると全面改修のような修繕内容になって、かなり高額になってしまいますので、部分改修とい

うことで新年度予定しています。

越湖委員：学童保育所は保健福祉課、放課後子ども教室は町民学習課が担当しているの、同じ子ども世代なので集約できる体制にしてほしいです。

町長：こども未来課が担当になります。

こども未来課長：子どもたちが放課後を過ごす場は、こども館や放課後子ども教室やみらいラボがあつて、親の就労の関係等で活動の場が違うことはあります。ニセコ町には児童館のような自由に過ごす場がないので、いろいろな取り組みをうまくコーディネートすることで、町全体が遊び場であり、児童館というようにしていくのも一つかと思っています。今は担当がそれぞれ別なので、情報はこども未来課で集約したり、将来的には一緒にやるということも考えていきたいと思っています。子どもの人権のお話もありましたが、子どもの遊ぶ権利も保障することも大事だと思っています。

町長：「子どもにやさしいまちづくり条例」を作っている自治体も増えてきています。

こども未来課長：子どもの遊びを見てあげられるような体制ができると良いと思っています。

町長：ちびっこ広場に池を作る計画がありますが、市街地の水自体が将来的に不足する可能性があります。ニセコ町は羊蹄山の水を市街地に流していますが、国道のアンヌプリ側に入っている管が40数年経っていて、塩ビ管のつなぎ目が相当漏水しているのではないかとということで、それを耐震管に切り替える工事を来年度から初めます。数年前にニセコの降水量が半減したことがあったり、翌年度に湧水の量も変わったりしたことがあるので、気候変動に対応するには水の確保は必要だということで、昨年ボーリングをしました。その水も含めて、旧水源の水をとることも改修計画に入れていまして、水を引く管と配水池の水の確保で安心できる水にしようということで、急ピッチで設計等の作業をしています。そのために、水をたくさん使う施設をすぐに町の中に作りづらい状況にあります。子どもたちが水で遊ぶ公園が欲しくて、保護者のみなさんの声もたくさん聞いて絵はできていますが、水の確保を優先するために先送りをしている実情がありますので、ご理解賜ればと思います。

#### 4 閉会

町長：町として、子どもの環境整備や教育には支援をしていきたいと思っていますし、それが次の世代の人をつくっていくことになると思いますので、引き続きご意見等いただいてご指導賜ればありがたいと思います。